

乳房再建とは？

乳がん治療により、変形してしまったり、失ってしまった乳房をとりもどすための治療が「乳房再建」です。

乳房再建はがん治療の延長線上にあると私たちは考えています。

当院では、乳房再建を希望されている患者さんへ、乳腺外科と形成外科によるチーム医療を行っております。乳腺外科と形成外科の二つの診療科が協力することによって、一人ひとりの患者さんの状態を十分に把握し、適切な乳房再建の方法・時期を選択することが可能となります。

おなじ病院のなかで密接な連携をとり、「チーム」としてがん治療を実践することによって、乳がん患者さんのQOLの向上に取り組んでおります。



当院での乳房再建～その1

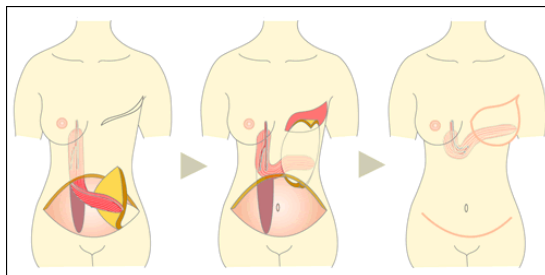
乳房切除と同時に再建をおこなうことができます

一次再建(同時再建)の中には、皮膚を伸ばすための組織拡張器(エキスパンダー)を挿入する方法があります。2013年7月、乳房再建用エキスパンダーが保険適応となりましたが、これを用いた再建を行うには学会が定めた基準を満たさなければなりません。当院は、その基準を満たしており、今回承認された乳房再建用エキスパンダーを使用して一次再建を実施することが可能です。

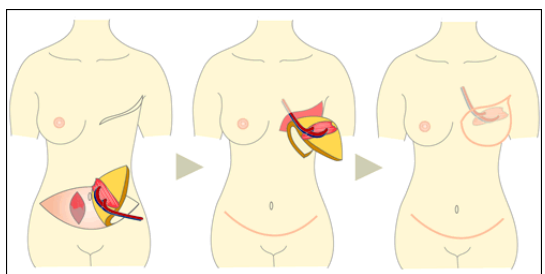
皮弁による再建をおこなっています

ひと口に「乳房再建」といっても、その方法はさまざまです。その中には、自分の組織の一部を使って乳房を再建する方法(皮弁法)があります。背中や下腹部(おへそより下)の組織を使うことが一般的です。

特にわれわれは、下腹部の組織を使って再建する場合には、お腹の犠牲をできるだけ少なくするために、遊離穿通枝皮弁による再建をおこなうことがあります。マイクロサージャリー手術に慣れた形成外科医が担当することで可能となる再建方法です。



有茎腹直筋弁法



遊離腹直筋弁法

人工乳房(インプラント)を使った再建をおこなっています

2013年7月から人工乳房による乳房再建が保険適応となりました。やはり、学会が定めた基準を満たす必要がありますが、当施設はその基準を通しておりますので、保険診療で人工乳房による乳房再建をおこなうことが可能です。

